

きほく通信

第27号
2012年
2月2日
発行

難病
患者家族会
きほく

【会長】 神森 和子
紀の川市中三谷
【相談室】 0736(77)5161
【事務局】 〒6496612 紀の川市北涌371
森田方 0736(75)4413

障害福祉地域啓発事業

1月28日 貴志川かがやきホール

平成23年度の障害福祉地域啓発事業が貴志川かがやきホールで開催されました。



の取り組みについて、和歌山県障害者スポーツ協会による話しと実技が行われました。

きほくの啓発ブースではあつちゃんの絵本の他、神森和子会長が提供してくれたふるさとのリンゴや、温つたかじ掛け、手づくりソックスカパーなどが販売されました。ブースではボランティアの赤田和繁さんに搬入や販売のお手伝いをいただきました。
なお、当日の売上は14600円でした。

今回は平成27年度

に和歌山県で開催される紀の国和歌山団体・全国障害者スポーツ大会をひかえ、障害者スポーツの普及を通じて健康づくりと障害者の社会参加の促進を図るため「からだを動かして元気になる」をテーマに開催されました。

和歌山県障害福祉課の塩崎卓司氏の講演と障害者スポーツ

当日のようすです。



和歌山県難病団体連絡協議会 和難連の仲間②

平成18年に那賀地方で結成された地域患者会です。膠原病やパーキンソン病など20疾病の患者さんが加盟し、医療や福祉の向上を求め和歌山県難病連とともに啓発活動などを行っています。

難病患者は「一生治らない」「仕事に就け

ない」など精神的・経済的な不安に加え、介護・通院などで家族に気を遣いながら生きていくのが現状です。そのような中で一番拠り所になっているのは主治医でありホームドクターですが、患者の訴えを疎ましく思われ

患者家族会きほく

きほく事務局長

森田 良恒

私たちがきほくがモットーとしているのは患者会であっても「楽しい」ことです。総会や研修会には、食べることを楽しみ、笑って療養に活かすことを心がけています。今年度の総会は紀の川市青洲の里で「薬膳

和歌山県の開業医さんたちで構成する和歌山県保険医協会が発行する機関誌「保険医新聞」にきほくの紹介記事が掲載されました。

保険医新聞に掲載

これは、「和難連 和歌山県難病団体連絡協議会」の仲間」というコーナーを和難連の構成団体が毎回受け持ち、加盟団体の紹介や開業医への意見など、自由なコラムを掲載するといつことで、きほくは第2回目に誌上掲載されました。難病患者にとって専門医はとても重要ですが、開業医のホームドクターも大切です。

健康バイキングを楽しむ」と題して開催しました。また10月22日には和歌山市のアパローム紀の国で「患者こそ笑って元気に」と題した5周年記念落語会を開催します。

これからのいかなる地域であっても患者は最善の治療を受けられ、孤独になることのないよう患者会活動を進めて参ります。